

地域との交流 札幌国際センター・帯広国際センター

「白石区ふるさとまつり」に参加

平成19年7月14日(土)、15日(日)に札幌市白石区役所駐車場にて、白石区最大の区民の夏祭り、「白石区ふるさとまつり」が開催された。

白石区を人情味あふれるすばらしいまちにしようとする昭和51年に白石区ふるさと会が始めたお祭り今年32回目を迎えた。同会の主催、白石区子ども会連絡協議会と白石区民センター運営委員会、白石区が共催した。

14日(土)には29名のJICA研修員が参加し、露店で好み焼き・フランクフルト・ゆでとうきびなどを購入し、ビールを片手に日本のおまつりを楽しむ研修員たちの姿が見られた。研修員は事前に北海道子供盆踊りを練習して行ったので、5時半からの盆踊り大会では地域の子供に混じりながら踊りを楽しんでいた。気温が上がらずに、肌寒い夕方ではあったが白石区地域振興課からの差し入れもあり、研修員は終始和やかなムードで、日本文化の一端を体験している様子であった。(札幌国際センター)



白石区ふるさとまつりの会場風景

毎月第2水曜夜は、「国際ミニバレー・ナイト」!

～地域で暮らす外国人の人たちと一緒に、ミニバレーをして遊びませんか?言葉ができなくても、誰でもすぐにいろいろな人と友だちになれます。水曜の夜、一緒に楽しい時間をすごしましょう～、とこんなメッセージで参加を呼びかけているミニバレー・ナイトは気楽な国際交流の場になっている。

ミニバレーの発祥の地は十勝。そのルールは3セットゲームで2セット先に取った方が勝ち。11点先取で1セットを取る。サーブ権がなくレシーブ側でもラリーで打ち勝つと得点できる。サーブの時のブロックやスパイクは禁止。ボールも小さめで柔らかいので誰でも参加できる人気のスポーツである。

当初、この国際ミニバレー・ナイトは平成17年12月からサークルの「i Amigos イン とかち」の主催で行われていたのが、今年の4月から十勝インターナショナル協会が継続的に実施することになった。老若男女、経験者、初心者問わず無料で参加できる。勝負よりも交流、コミュニケーション重視のイベントとして、今後も市民と在住外国人、JICA研修員との橋渡しのイベントになることを目指して続けていく。

8月8日、水曜夜、この日も市民や研修員たちが運動靴持参で会場の森の交流館・十勝の多目的ホールで汗を流していた。

(帯広国際センター)



国際ミニバレー大会の看板



ミニバレーボールの様子

地域の活動 恒例、「世界のともだち2007」を開催

一 在住、留学、研修などで帯広・十勝に暮らす外国人と集う一

7月1日(日)、帯広国際センター、森の交流館・十勝を中心とする周辺は留学生やJICA研修員をはじめとする在住外国人、地域で活動するNGOのメンバー、ボランティア、市民など大勢の参加者で賑わった。

JICA帯広国際センター、JICE北海道支所(帯広)、北方圏センター(帯広国際センター)、十勝インターナショナル協会、帯広市、NGOなど地域をあげての国際交流の集いで、お互いを理解し合うなかで国際協力活動に対する理解を深めてもらおうと毎年夏に開催されている。

帯広国際センターのラウンジでは国際協力をPRする「国際協カスタジオ」にJICA研修員が出演して話したり、森の交流館・十勝館内のウィンターガーデンに設けられたNGOブースの「エスニックカフェ」ではサモア、シリア、タイ、ベトナムなど15カ国の留学生が故国の料理を紹介したりと訪れた人たちは異文化を体験した。

また、晴天に恵まれたこの日、屋外のサマーガーデンでは研修員と日本人がチームを組んでサッカーゴールを狙うゲーム「世界のともだちカップ」、「サクランボの種とばし」、「水鉄砲」レース、「ぐるぐるパット」などが行われて、参加者たちは各ゲームに熱い歓声をあげていた。合間にはゴスペルやブルーグラスのミニコンサートに聴き入るなど集まった人たちは楽しい1日を過ごしていた。

(北方圏センター・帯広国際センター)



「世界は友だちカップ2007」の順位発表



競技「飛ばせ!サクランボの種」に興じる